

研究課題名	指基節骨骨折術後の拘縮要因
実施責任者	所属・職名：整形外科 氏名：加納 寛之
研究の概要	指基節骨骨折は頻度の高い骨折である。単純転倒による骨折から労災事故による重度手部外傷まで幅広くあるが、いずれにせよしばしば術後に指拘縮が残存してしまう症例がある。今回は拘縮要因を同定して治療に役立てることを目的としている。
実施の期間	西暦 2018年 10月 1日より 西暦 2019年 3月 31日まで
研究対象	当院において 2007 年～2018 年の間に手術加療を受けて3ヶ月以上追跡可能であった 17 歳以上の基節骨骨折 117 指。